

# NJ 素流協 News

令和4年8月10日

第211号

令和4年8月10日発行・発行所 ノースジャパン素材流通協同組合 〒020-0024 盛岡市菜園1丁目3-6（農林会館5階）  
TEL 019(652)7227 / FAX 019(654)8533 / <http://www.soryukyo.or.jp/index.html>



作業実演で山のしごとをPR！

## ノースジャパン素材流通協同組合青年部会 『第2回げんき森林モリ フェスティバル』を開催!!

ノースジャパン素材流通協同組合青年部会は、7月9日、岩手県

八幡平市の岩手県民の森において、いわての森林づくり県民税を活用した児童・生徒向けの森林・林業普及啓発イベント「第2回げ

んき森林(モリ)モリフェスティバル」を開催した。

昨年に続いて2回目の開催となる今回は、第73回全国植樹祭1年前記念イベント(主催：岩手県、第73回全国植樹祭岩手県実行委員会)、チェンソー伐倒実演(主催：岩手県グリーンマイスター連絡協議会)、木工体験(主催：岩手県木材青壮年協議会)と併催したこともあり、昨年を上回る約600名が来場した。

青年部会は、NJ素流協組合員の青年経営者及び後継者の資質向上と相互の連絡協調を図り、組合及び組合員個々の更なる発展に寄与することを目的に令和元年8月に設立。会員の事業に関する知識・技術向上を図るための研修事業、森林・林業の普及啓発及び社会貢献活動、他団体青年組織との交流

活動等に、主に会員の発案により取り組んでおり、現在、会員34名で活動している。

このイベントを開催することになったきっかけは、会員から「現在、全国各地で若手林業技術者の教育・研修を行う林業大学校や林業アカデミーが整備されて人材育成の取組みが行われているが、林業の人材育成を進めるためには、まず、小・中・高生に林業への興味を持ってもらうことが必要ではないか。もっと知ってもらうための活動ができないか。」という意見が出たことであった。

それから実現に向けた検討や情報収集を進めていたなかで、岩手県庁から「いわての森林づくり県民税」を活用した県民参加の森林づくり促進事業の森林環境学習活動の企画募集について情報をいただき、応募したところ審査を経て無事に採択となった。

その後も関係各位の助言・協力をいただきながら企画を進め、活動の実現に至った。

なお、このイベントは青年部会活動の目玉として、今後も毎年開催を予定している。

イベント会場には、林業の仕事イメージしてもらうために機械作業の実演を行う「山のしごとコーナー」、木や林業を身近に感じてもらうための各種体験を準備した「木とのふれあいコーナー」、高性能林業機械の実機及び紹介展示等を行う「展示コーナー」の3つのコーナーを設けた。

各コーナー及び併催イベントの様子をご紹介します。



### 《山のしごとコーナー》

普段、身近であり見ることが無い「山のしごと」を見て知ってもらうため、林業の機械作業の実演を全3回実施した。

各回の実演では、はじめに併催イベントである岩手県グリーンマイスター協議会によるチェーンソー伐倒実演が行われた。岩手県伐木技術指導員が、伐倒の手順や注意点等について分かりやすく説明をしながら、正確で安全な伐倒を披露した。

その後、高性能林業機械の作業実演に移り、青年部会の会員が説明及びオペレーターを担当し、2種類のハーベスタによる伐倒造材、グラップルソーによる集積作業を実演した。また、造材後の丸太を使い自走式チップパーによる破碎作業の実演も行った。

たくましいチェーンソーマンやカッコいい機械による迫力ある作業を目の当たりにして、会場からは驚きの歓声が上がっていた。



会場中が注目



狙った方向に伐倒



ハーベスタで伐倒造材



テレブーム仕様ハーベスタも登場



### 《木とのふれあい コーナー》

木に慣れ親しんだり、林業を模  
擬的に体感してもらうための体験  
ブースを設けた。各ブースでは体  
験内容についてスタッフが子供た  
ちに丁寧に説明したり、一緒に楽  
しんでいる様子が見られた。

#### ▼木のぼり体験

インストラクターの指導を  
受けながら専用のロープと安  
全保護具を使った木のぼりを  
満喫していた。操作に慣れた  
後は記念撮影も行うなど大い  
に楽しんでいた。



#### ▼丸太ぎり体験（鋸挽き）

スタッフから力を入れるタイ  
ミングなどのアドバイスをや応援  
を受けながら一生懸命輪切りに  
挑戦していた。



#### ▼丸太ぎり体験（チェーンソー）

安全のためフェイスシールド  
・イヤーマフ付き保護帽、チャッ  
プス、防護ブーツ、手袋を着用し、  
正面には跳ね返りの危険を防ぐた  
めアクリル板を設置。チェーンソー  
マンの指導・補助のもと丸太の輪  
切りを体験していた。



#### ▼枝はらい体験

枝払いの練習用装置を使って  
作業を疑似体験した。装置は磁  
石で取り付けた枝を払い落とす  
構造になっており、チェーンソー  
の刃を取り付けず、エンジンも  
かけずに安全に体験ができる。  
速く正確に枝払いを行うために  
何度も挑む様子が見られた。



#### ▼木工体験

会場の広場内では岩手県木材  
青壮年協議会による木工体験を  
併催した。今年「本立て」を  
製作し、置き方で「コーナーラッ  
ク」にもなるアイデア品であつ  
た。手順やコツを教わりながら  
夢中になって木工に取り組んで  
いた。



どう使うかは  
おまかせ！



《展示コーナー》

林業機械メーカーの各ブースにおいて、高性能林業機械の実機展示や機械の紹介展示が行われた。子供たちが機械の運転席に座って記念撮影をしたり、運転シミュレーターで操作体験を行うなど楽しんでいる様子が見られた。県民の森の「森林ふれあい学習館フォレストi(アイ)」では森林・林業の紹介動画や伐木チャンネルオンシップの動画上映を行った。フォレストiには見ごたえたっぷりの展示が充実しており、こちらも一緒に楽しんでいる様子であった。



メーカー出展も多数



展示機械も充実



運転席に座って記念撮影

また、記念イベントと森林モリフェスティバルの両会場のポイントを回ると木工品や八幡平市特産品、植樹祭オリジナルグッズが当たるスタンプリアー抽選会も好評であった。

【併催イベント】

第73回全国植樹祭

1年前記念イベント

森林ふれあい学習館前において、第73回全国植樹祭のPR、岩手県産木工品の展示・販売、開催地である八幡平市の物産販売、ステージパフォーマンス、ラジオ生中継等が催された。



シミュレーターで運転体験

ブース数も増え、昨年以上の規模で開催した「第2回げんき森林モリフェスティバル」は、多くの方にご来場いただき、元氣モリモリな青年部会スタッフ達も大忙しだったが、子供たちと一緒に楽しんでいる様子であった。今回のイベント開催にあたり、ご協力をいただいた多くの皆様に深く感謝申し上げます。

協力団体・会社等のご紹介

(公社) 岩手県緑化推進委員会 / 岩手県民の森 / 岩手県林業団体青年部連絡協議会 / (株) レンタルのニッケン / 日立建機日本(株) / 日本キャタピラー(同) 北東北地区 / イワフジ工業(株) / 住友建機販売(株) / コマツ岩手(株) / 緑産(株) / (株) サナー

◎今後の青年部会活動

8月28日に(一社)陸前高田青年会議所が主催する小学生向け職業体験イベント「グッジョブケース」に参加予定!



## 番外編：イベントの裏側ショット



監督の指示がひびきます



元気モリモリ青年部会三役



操作方法を入念にチェック



協力して準備をすすめます



実演用の木を設置



練習装置に興味津々



機械も多く見栄えがします



開会式で一致団結



## トピックス

令和4年度第1回東北  
地区・中央需給情報  
連絡協議会 議事概要

林野庁の「国産材の安定供給体制の構築に向けた需給情報連絡協議会」のうち、東北地区需給情報連絡協議会が6月2日、中央需給情報連絡協議会が6月21日にウェブにより開催されました。

## 【各地区の意見】

●北海道地区：住宅設備機器の入手難かつ価格上昇により契約に結びつかない。木材不足については、合板以外は解消の方向。川中の梱包材や栈木生産は、原木を高い価格で買えず、確保が課題。川上は立木価格が上がっており、伐採時に利益を出せるのか不安。急な増産体制は難しい。

●東北地区：住宅は合板の入手が難しい。ウクライナ情勢により杉集成材・間柱・野縁は見込み需要で売れた。大手加工工場には2〜3カ

月の原木在庫があり、受け入れ制限が始まったところも出ている。

ロシア単板の代替としてカラマツ原木の需要があるが十分確保できない。アカマツ原木は、受け入れ先が限られ、単板製造工程がボトルネックとなっている。国産集成材の異樹種を含めた横架材利用、ストック機能をどこが担うかが課題。外国人実習生が入ってきて増産に期待。

●関東地区：住宅設備の調達難・資材高騰による住宅への価格転嫁について顧客との調整に苦慮。

川中では、一定程度国産材への転換が進み、今後はスギ平角の無垢材の活用が課題。製品の増産のボトルネックは乾燥。合板・LVL工場ではロシア単板の代替材を模索中。今後の出材の体制強化については慎重にならざるを得ない。

●中部地区：住宅販売量は前年並み、住宅設備の供給不足や価格高で、今後施工主の注文見合わせがあることも。製材はフル生産、原木調達に順調。合板の供給不足は仕様の

変更で対応。スギLVLは価格転嫁により山元に利益還元できてい

る。生産意欲から現在の原木価格が適正と感じる。今後の増産は需要があるか不安。カラマツは生産量確保が課題。資材不足で林業機械の更新には一年要する。

●近畿中国：住宅資材は、合板・杉集成材以外は順調。合板価格の上昇や住設機器不足による工期遅延が経営を圧迫。新規受注は昨年12月以降低調。地域住宅において脱炭素に向けた動きがある。川中は、原木確保は順調でフル生産しているが、人材確保・乾燥能力がボトルネック。合板工場での早生樹活用を検討。川上は、国産材の需要増を受け増産に取り組んでいる。

今後の課題は、皆伐可能地の確保、素材生産者の育成、運送トラック確保、危険作業を伴うことを踏まえた賃金を見込んだ適正な原木価格の維持。

●四国地区：桧高値で、出荷量が増え在庫も多い。杉は原木不足により引き合い強い。パルプ・チップ

用は原料調達が難しい。川上では、大型トラックが入る林道が必要。

県内5者で共同組合を5月に設立し、来年度10名程度の外国人雇用について検討している。皆伐が非常に増えているので生産事業に加えて造林事業への対応も必要。

川中はフル稼働。105角よりも歩留まりが良い120角需要を増やしてもらえると良い。

●九州地区：輸出に関しては、上海ロックダウンの影響で中国の港に原木があふれている。6月以降の需要を見越して輸出用丸太が順調に動いている。川下は、木材価格上昇は賛成であるが急な変動は対応が難しい。部材の不足感はない。プレカットは稼働率80〜90%。住宅資材高騰による住宅の買い控えを懸念。素材生産が10%は増えているが再造林が進んでいない。

## 【輸入材の状況、川下の動向等】

・米材について、第2四半期は、SPFは価格面から最低限の受注で、ツーバイフォーは例年通り。垂木は前年同期比減少。第3四半

期は、円安や国内在庫が多いことから、最低限の確保に留まると予想。ベイマツは発注調整となる見通し。第4四半期は、これまで長期間受注を押さえているので、多少伸びて例年程度と予想。

・欧州材について、第2四半期は堅調な入荷。第3四半期はオフアール数量がまとまり前年同期比程度と予想。第4四半期は調整局面に入り限定的な受注となる予想。

・輸入動向(南洋材、合板、ニュージランド・チリ材)について、第2四半期は前年同期比増加の方向。第3四半期は、海上運賃の高値、円安、日本需要の一服感により、前年同期比で推移と予想。

・現在輸入材の在庫がピークであるが、長期的には、住宅需要に対して供給不足感が続く予想。

・木質住宅資材は、価格は高止まりだが不足感はない。住宅設備は一部に不足や遅れがあるが、徐々に解消すると予測。合板では仕上げ突板等が入手困難。

・地域工務店の受注は減少し、プ

レカット工場の稼働率も低下。

・WWやRW集成材の在庫があり、ロシア材は現在売れ行きが悪い。施主のロシア材に対する拒絶反応は感じられない。国産材への転換は進んでいない。

・米国、欧州材は現地での需要減で価格の下落傾向が続き、国産材もつられて動く予想。

【川中、川上の状況】

・製材はコロナ以前の生産量に戻っていて、フル稼働状態。需要に応じた生産加工をしている状況。

・ロシアから半製品が入っていて、原料不足や価格高騰といった動きは無い。在庫はだいぶ貯まっている。合板は、原木入荷量はコロナ前の水準に近く、昨秋以降の原木供給増で在庫増。だが、カラマツ・ヒノキが厳しい。

・合板製品は、今年の4月末までの計は前年同期比+0.8%程度。

・ロシアからの輸出入が禁止された单板が中国に流れて、合板に加工されて日本に入ってきている。

JASを取得しているようだが、品質面での懸念があるとの情報もあるので注視。

・集成材については、生産量累計は前年並み。スギの集成管柱メーカーの引きは強いが価格の天井感がある。

・ラミナは輸入材が7割を占めるが、大きな問題は無い。国産材比率を高めたとしても乾燥施設が導入できない場合がある。

・LVLについては需要が増えており、ロシア材単板の代替材確保に向けた検討を進めているところも。

・素材生産量は順調に推移、現場はフル稼働。

・人材育成や施業の集約化を進め、川中・川下の需要に応えられるよう取り組みたい。

・国産材の安定供給を行うためには長期的な投資、適正な立木価格が必要。

・バイオマス発電施設について、国内の原木由来の燃料が一部の地域において不足。

【林野庁のまとめ】

・国の補助実績の効果が出てくるのは1~2年後であり、ウッドショック後の設備投資の効果は今年の後半以降に現れると見込む。

・素材生産量や製品生産量は、需要である住宅着工戸数と連動している。令和3年は令和元年の住宅着工数より減少したものの、素材生産量や製品生産量は維持されたことから、輸入材不足の分をカバーしてやりくりした結果と思われる。

・ロシアからの輸入を禁止している品目について、中国を経由して関税分類が変わらず日本に入ってくるものは違法だが、中国で加工されて輸入した場合は、法規制上違法では無い。製品の品質は、エビデンスに基づいて議論する必要がある。

・林業や木材産業において国産材のシェア拡大を進める中で消費者の理解を得ることが重要であり、他産業と比較して死傷率が高い状況を解消するために、作業安全の確保を徹底して欲しい。

## フォトソリユーション を使った丸太販売

これまで当組合のフォトソリユーション(※1)は、広葉樹の樹種判定や丸太に関する相談を目的としていました。

今回はリモート販売を目的とし、化粧板製材所の事務所・土場・NJ素流協事務所の3ヶ所を携帯電話で結び、リアルタイム販売を試行しました。

この背景には、製材所はコロナ禍で全国の市場などに、丸太の買い付けに行けなくなり、良質な丸太の仕入れが困難になっていることがあります。

今回行った販売の方法は、  
①タブレットで丸太の写真を撮る(末口・元口・全体・特徴・欠点)

②NJ素流協の事務所で写真のサイズを縮小する

③その写真を、メールで購入者に送る

④購入者は写真を確認しながら電話で売買交渉する

この販売方法により、37㎡中22㎡を販売することができ、平均単価(土場渡し)は19,300円となりました。

今回試行した結果の注意点としては次のとおり。

①携帯電話が通じることが条件  
②販売者は、購入者が必要としている丸太の品質をよく理解していること

③対象となる丸太が多いほど、写真の量が増え、撮影・加工・送信に時間がかかる

④写真を撮る人と写真を加工する人の2人が必要

今後は、アプリなどを使って、もっと簡単に商談ができれば、購入者は気軽に品質確認ができ、販売するアイテムや販売量が増えるものと思われまます。

※1 組合員が素材生産や流通・販売、造林や育林などの事業を行うなかで、判別や判断に困った際に関連する写真を送付いただくことで、当組合事務局が解決のお手伝いを行う仕組み。

フォトソリユーションのご利用は、写真をデータでメール送付・郵送・持ち込みのいずれかの方法でも可能です。

お問い合わせは、ノースジャパンス素流通協同組合営業企画部まで。

### 送付方法(以下のいずれの方法でも可)

- メールによる送付  
photo@soryukyo.or.jp  
ノースジャパン素流通協同組合  
営業企画部 宛
- 郵送または持ち込み  
〒020-0024  
岩手県盛岡市菜園1丁目3番6号  
(農林会館内)  
ノースジャパン素流通協同組合  
営業企画部 宛

## お知らせ

### 海岸防災林再生活動の 実施について

当組合が仙台森林管理署と社会貢献の森協定を締結し、保育管理を行っている「ノースジャパン100年復興の森」の再生活動を実

施します。多くの方のご協力、ご参加をお待ちしております。

【場所】宮城県名取市

台林国宥林

【内容】つる切り、下刈り

本数調整等

開催日等詳細につきましては別途ご案内します。お問合せは経営企画課 野田まで。

## 新職員紹介

7月1日付新任

営業企画部 営業

杉淵 泰斗(スギブチ タイト)

営業企画部営業として入組致しました。秋田県秋田市出身の25歳です。学生時代はフロアボールという室内で行うホッケーの日本代表として世界大会に出場したこともあり、体力と忍耐力には自信があります！

初めての経験で分からないことばかりですが皆様にお会いするのを楽しみに一生懸命業務に励んでおりますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。



# ちよつと気になる木の話

73

林業・木材産業の産地化とは？  
— 頭の中で描いた理想図ではねえ？ —

かつて、全銘展であいさつの機会があった。昼食会場で入札参加者の皆さんに弁当が配布された中で開始された。当然、知り合い同士が席を隣り合わせて、ガチャガチャと話をしていて、進行者の声も良く聞こえない状況だった。

そこで、あいさつを始めた。型通りの「全銘展開催おめでとうございます。」の時から、次のフレーズに入ったら、徐々にガチャガチャは終わりに、シーンとして話を真剣に聞き始めた。そのフレーズとは、「皆さんは、今日の参加メンバーをみて、ライバルのあいづがいる、いないのを見ながら、どの値段で買うか悩んでいるかも知れない。しかし、あいづとアイツだけ居なければ、安く買えて儲かるのにと思っている、間違いだと思つ。強力なライバルがいるからこそ、この木取りをどうするか、この欠点はカ

バーできる等工夫し、全力で取組むことから、業務を向上・成功させることができる。実際に、ライバルが廃業して、一人になるとそのエリアの活性化は起きず衰退する。そして、ライバルが生きていた時代が良かったということになっている。今回は、皆さん揃っていることが幸せだということ、がんばって、木に喜んでもらいたい記念市となることを期待します。」

終了後、大きな拍手とともに、再び弁当食への昼食会に戻っていった。林業・木材産業の産地化とは、同業者が一定程度集中立地することにより、生産量の質・額ともに向上し、自然と遠くからでも丸太が集まるようになるのである。かつて、今は別にしても、旭川広葉樹業界、都城大型製材工場業界、日田木材市場集中立地、美作ヒノキ製材業界、桜井製材工場業界、八溝系製材工場業界、岐阜広葉樹木材市場向かいあわせ、東洋一の木都能代業界等が挙げられ

る。

合板工場でも、境港には日新と松江エヌエル工業、石巻にはセイホクと石巻合板工業が隣接立地している。このことは、競合しているとの見方よりも、競争して成長しているとの見方が正しいと確信している。お互いに、全く同じことで競っているのではなく、創意工夫・努力が行われているのである。

山側から見ると、様々な工夫をしても、納入先工場により必要な樹種、材長、径級、品質にも差が少なからず生じることから、県を跨いでも供給し易いメリットがあるのである。国産材供給を頭の中で考えて整理して優越感を感じる人がいるとすると、同じエリアの産地化の理想図を次のように考える。

「スギ小径木工場」、「中目材工場」、「大径材工場」、「カラマツ工場」、「アカマツ工場」、「広葉樹工場」、「製紙用チップ工場」、「バイオマス用チップ工場」、誰もが必要な丸太が重ならず、全て利用できるバランス良い工場立地こそが産地化である。そして、

総て、50 km〜100 km以内の県内供給量で賄うことが大切だとして、生産された製品は、県内で消費され、川上、川中、川下一体の行政となる。しかし、これは全くうまくいかない妄想である。消費を分けた工場毎にバランスよく出材される丸太供給は、山の立地条件や樹齢構成、樹種構成も異なり難しい。

そして、最も大きなことは、その時利益の出る製品品目を生産したいのである。自分が担当する品目はニーズが少なく儲からないが、隣の工場はニーズが高く、儲ければ当然そうした製材にシフトすることとなる。こうして同じ製品を作る業者が集中立地する産地化への途が一番ルートとなっていくと考えられる。

最初に述べたように、ライバルの存在が産地化へのキーワードである。自動車産業のように世界を見据えた企業城下町のように林業・木材産業は進めない。地域に巨大企業一社の殿様商売とは良い意味だとは解釈されない。切磋琢磨である(足の引つ張り合いではなく)。

令和4年7月分の販売実績

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m <sup>3</sup> )	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	11,751	74.1	98.6	6,409	66.8	51.0	18,160	71.4	74.2
カラマツ	3,321	94.9	191.8	2,774	70.7	93.9	6,095	82.1	130.1
アカマツ	1,977	103.5	141.6	0	0.0	0.0	1,977	92.3	134.1
その他	0	0.0	*	296	97.0	107.3	296	94.8	107.3
合計	17,049	80.1	113.3	9,479	67.5	59.7	26,528	75.1	85.8

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	3,357	66.2	79.6
カラマツ	3,244	130.9	127.4
アカマツ	650	53.5	161.2
その他	100	170.4	69.3
合計	7,351	83.3	100.6

樹種	今年度累計			
	合板・LVL用 (m <sup>3</sup> )	製材・集成材・その他用 (m <sup>3</sup> )	計 (m <sup>3</sup> )	燃料用 (t)
スギ	58,361	34,766	93,127	14,765
カラマツ	13,471	12,101	25,571	11,408
アカマツ	10,126	752	10,878	7,407
その他	7	1,208	1,215	311
合計	81,965	48,826	130,791	33,892
目標達成率 (%)	34.2	27.9	31.5	25.1
計画量	240,000	175,000	415,000	135,000

注)\*印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

【令和4年7月の需給動向】

- 各工場の原木在庫が過剰となり受入制限が続く。この状況は当面続く見込み。
- カラマツも原木在庫が確保され、合板・集成材工場の引き合いが弱まる。
- 低質材（バイオマス材）は、原木在庫不足の状況もあり、引き合いが強い。

耳からウロコ

間伐材利用工場補助金と会計検査  
— まさかまさかの連続 —

今から35年程前、日本林業の大きな課題は、戦後拡大造林木が一齐に大きくなり、間伐適期を迎えたが、その利用用途がなく、伐り捨て間伐となっていた。この利用を推進するため、間伐対策室が設置され、その利用工場への補助金が予算化され、実行されていた。

ところが、事業終了後、会計検査対応のみ、担当課を移動させ、林産課が担うこととなった。最初の検査が中部のG県に入る。そこで指摘が…。アイスクリームの棒を間伐材でつくと申請していたが、何と？北洋材を利用していたのである。当然目的趣旨が違うので、補助金返還である。これはと検査院も思ったのか、集中的に検査が入った。

関東のI県も外材利用でアウト！謝りにきたが、一言も言葉を発せず、下を向いたままだった。そうなる

東北のA県は、検査員の入る前に、補助金返還申し出をしてきた。バタバタである。そのため、A県では、別の案件に入ったら、素材組合に入れたトラックがなく、運送会社に転売されていた案件にはまってしまったのである。

このようにして、間伐材利用工場補助金には、個人的には良い思い出がない。そこで、ブームだったログハウスに利用しようと建築基準法下での認可に向かったのはその一つである。

最初のアイスクリームのスティック案件をみると、当時は、割りばし論争もあり、使い捨て割りばしは、自然環境破壊であると言われ、間伐材から作る良い割りばし、海外での違法伐採から作られる悪い割りばしの話も大きかった。

今、脱プラ時代である。割りばしだけでなく、木製スティック棒・スプーン・フォーク・皿等々日用品の脱プラ工場に投資してみてもどうかなくと思える。この国産材時代に、まさかかつてのように外材利用して補助金返還する企業は無いでしょう。